



校長先生の話

新型コロナウイルス感染拡大防止



# 「コロナ×こどもアンケート 第2回調査報告書」

国立成育医療研究センター (National Center for Child Health and Development)

昨年6～7月実施、9月発表 以下、中学生の回答から

「マスクをつけていても、コロナにかかることはある」

「熱も咳もなく元気でも、コロナにかかっていることがある」

ことを知っている 90%以上

「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい」

33%

「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい

と思う人が多いだろう」

62%



# 「コロナ×こどもアンケート 第2回調査報告書」

国立成育医療研究センター (National Center for Child Health and Development)

「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい  
と思う人が多いだろう」 **62%**

「コロナになった人とは、コロナが治っても付き合うのをためらう」  
**11%**

「コロナになった人とは、コロナが治っても付き合うのをためらう  
人が多いだろう」 **38%**



# 「コロナ×こどもアンケート 第2回調査報告書」

国立成育医療研究センター (National Center for Child Health and Development)

「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい  
と思う人が多いだろう」 62%

「コロナになった人とは、コロナが治っても付き合うのをためらう  
人が多いだろう」 38%

「～人が多いだろう」・・・自分自身はそうしないけれど、  
「社会」や「世間」ではそうするだろう

**But**

私たちは簡単に「社会」や「世間」になってしまう恐れがある



# 「コロナ×こどもアンケート 第2回調査報告書」

「おわりに」として…

コロナに関連した差別や偏見が、こどもたちの周りにも少なからず押し寄せていることが分かりました。

多くの人々が「コロナになった人とは、コロナが治っても、付き合うのをためらう人が多いだろう」と感じてしまう社会では、

「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい」と思ってしまう人が増えるでしょう。

**正しい知識**を持つこと、**自分や周りのひとを大切に**する気持ちを持つことが、いま特に必要とされているのではないのでしょうか。



# 正しい知識と責任ある正しい対応を

正しい知識を持つこと、自分や周りのひとを大切にする気持ちを持つことが、いま特に必要とされているのではないのでしょうか。

## 正しい対応

決して油断しないで、一人一人が感染予防策をきちんと行う。  
体調が普段と違っていたら、無理に登校しないで学校を休む。  
同居家族が感染してしまったら、自分は元気でも登校しない。  
感染したかも知れない時は、まず電話で医療機関に相談する。  
感染した時は、外出せず他人と接触せず、医師の指示に従う。

迷ったら「埼玉県受診・相談センター」048-762-8026（9:00～17:30）



## MOISでは…

生徒も先生も自分がすべきこと、できることを行って、感染を予防しています。

どれだけ気を付けていても、誰もが感染する可能性を持っています。

誰かが感染したとしても、私たちはその人を特別だとは考えません。

感染したことを責めたり、悪口を言ったり、仲間外れにしたりしません。

感染が拡大して、オンラインになったり学校行事が中止になったりしても、それはウイルスのせいであって、感染した人のせいではありません。

色々な思いや考えが頭に浮かぶかも知れないけれど、何を口にするか、どう表現するか、相手の心情を思いやって、心無い言葉や態度にならないよう、表現する前に考えましょう。

私たちが目指す「よりよい世界の未来」は、そうやって実現していくのです。

今日は前回の続きを話す予定でしたが、急遽変更して「新型コロナウイルス感染拡大防止」についてお話しします。この話は昨年9月の朝礼で話した内容をベースにしていますので、2・3年生は思い出しながら、1年生はしっかりと聴いてください。

昨年9月に、国立成育医療研究センターという研究機関が、ある発表をしました。分かりにくい名称の機関ですが、英語で示すと少し分かりやすくなります。National Center for Child Health and Development、つまり子どもの健康と発達のためのセンターです。

発表の内容は、「コロナ×こどもアンケート 第2回調査報告書」です。昨年の6月中旬から7月下旬に、全国の小中高生およそ1000名がアンケートに答えたものだそうです。

この調査はその後も継続されていて、先月11月には第6回調査報告書まで出されていますが、毎回調査項目が異なっていて、第2回と同じ調査結果が無いので、1年前のデータを引用してお話しします。

この報告書の中で次の5点について、中学生による回答だけを示します。

- ・「マスクをつけていても、コロナにかかることはある」「熱も咳もなく元気でも、コロナにかかっていることがある」ことを「知っている」と回答したのは90%以上
- ・「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい」と回答したのは33%
- ・「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたいと思う人が多いだろう」と回答したのは62%
  
- ・「コロナになった人とは、コロナが治っても付き合うのをためらう」と回答したのは11%
- ・「コロナになった人とは、コロナが治っても付き合うのをためらう人が多いだろう」と回答したのは38%

「～人が多いだろう」という回答は、自分自身はそうしないけれど、「社会」や「世間」ではそうするだろう、という意識の表れなのでしょう。でも、私たちは発達したインターネットやSNSによって、簡単に匿名の「社会」や「世間」になってしまう恐れがあります。そう考えると、「～人が多いだろう」という回答は、自分自身がそうなる危険性もはらんでいると言えるのではないのでしょうか。

この調査結果報告書では、「おわりに」で次のように述べられています。

「コロナに関連した差別や偏見が、こどもたちの周りにも少なからず押し寄せていることが分かりました。多くの人が「コロナになった人とは、コロナが治っても、付き合うのをためらう人が多いだろう」と感じてしまう社会では、「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい」と思ってしまう人が増えるでしょう。正しい知識を持つこと、自分や周りのひとを大切にす気持ちを持つことが、いま特に必要とされているのではないのでしょうか。」

この「正しい知識」に基づくと、「正しい対応」も可能になると思います。それはつまり、「決して油断しないで、一人一人が感染予防策をきちんと行う。」ことであり、「体調が普段と違っていたら、無理に登校しないで学校を休む。」ことであり、「同居家族が感染して



しまったら、自分は元気でも登校しない。」ことであり、「感染したかも知れない時は、まず電話で医療機関に相談する。」ことであり、「感染した時は、外出せず他人と接触せず、医師の指示に従う。」ことであり、「迷ったら「埼玉県受診・相談センター」に電話で相談することです。平日だけでなく土日祝日にも、毎日9時から5時半まで相談できます。

そして、たとえ登校を控えていても、可能なら自宅でオンライン授業に参加することです。必要な時には遠慮なく担任の先生に連絡してください。

MOISでは、生徒の皆さんも先生方も、自分がすべきこと、できることを行って、感染を予防しています。それでも、どれだけ気を付けていても、誰もが感染する可能性を持っています。これから先も、いつ誰が感染したとしても、私たちはその人を特別だとは考えません。ましてや感染したことを責めたり、悪口を言ったり、仲間外れにしたりしません。これから先また感染が拡大して、オンラインになったり、学校行事が中止になったりしても、それはウイルスのせいであって、感染した人のせいではありません。

色々な思いや考えが頭に浮かぶかも知れないけれど、何を口にするか、どう表現するか、相手の心情を思いやって、心無い言葉や態度にならないよう、表現する前に考えましょう。

私たちMOISが目指す「よりよい世界の未来」は、例えばそうやって実現していくのです。

もうじき「ほけんだより12月号」が出ますので、そこに載っている感染予防の記事も必ず読んでください。以上です。